SDGs未来都市
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

壱岐活き　対話型社会

壱岐-粋-な Society5.0

ＩＴと自然が交わる最先端のまち“壱岐”

令和２年２月１７日

壱岐市 総務部 SDGs未来課

壱岐市の位置・アクセス

〈福岡市博多港から〉　約６７km
※JR1,310円

〇フェリー　片道　2,020円
島民割引運賃　1,380円
・博多港－郷ノ浦港　約２時間２０分
・博多港－芦辺港　約２時間１０分

〇高速船　片道　4,120円
島民割引運賃　2,830円
・博多港－郷ノ浦港　約１時間１０分
・博多港－芦辺港　約１時間　５分
（フェリー、高速船　１日各４往復）

〈長崎空港から〉　約９４km
〇航空機　片道　10,300円
島民割引運賃　5,000円
・長崎空港－壱岐空港　約３０分
（１日２往復）

〈佐賀県唐津港から〉　約４２km
※JR 860円
〇フェリー　片道　1,590円
島民割引運賃　910円
・唐津東港－印通寺港　１時間４０分
（１日５往復）

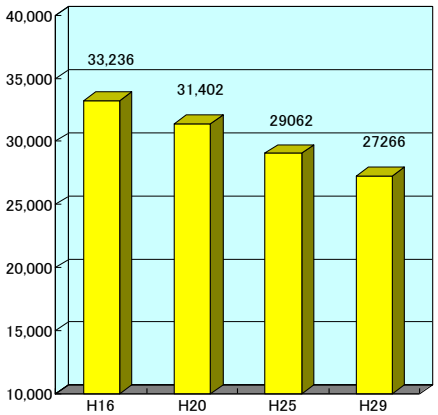
料金等はＲ1.10月現在です。

※H29.4月有人国境離島法施行に伴い、離島住民向けの航路・航空路運賃がJR運賃並に引き下げ。

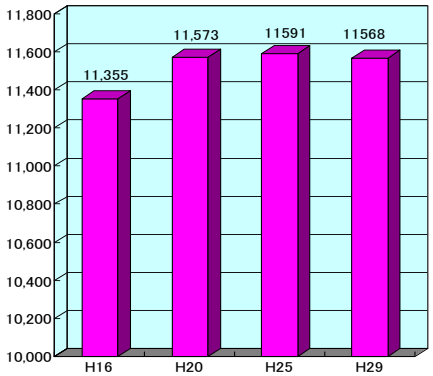
壱岐市の概要

面積等	長崎県　壱岐市	
	広域	南北　約17km
		東西　約15km
	面積	139.42Km^2
地形	周囲	約191Ｋｍ
	昭和43年　壱岐対馬国定公園に指定、主島の壱岐島と２３の属島（有人島４無人島１９）からなる離島	
行政区域	平成16年3月に４町（郷ノ浦町、勝本町、芦辺町、石田町）が合併し、壱岐市となる	
人口（H31.3.31現在）	総人数	26,536人
	世帯数	11,562世帯
	高齢者人口	9,752人（36.75%）　※ 65歳以上
交通	島内交通	バス、タクシー　※自家用車中心
	島外交通	ジェットフォイル、フェリー、飛行機
情報通信環境	伝送路方式	ＦＴＴＨ(光ファイバー)方式（市内全域が提供エリア）
	通信環境	100Ｍｂｐｓ（～1,000Mbpsの通信サービス有）
	ＣＡＴＶ	地上波 11ch、ＢＳ 8ch、CS、自主放送 2ch
	コミュニティＦＭ	全世帯提供エリア（７６．５MHz）
防災	全世帯を対象に告知放送用端末を設置　（有線方式） 屋外拡声機２０５局（有線方式）	

人口の推移



世帯の推移



コミュニケーション技術を活用した市民協働

富士ゼロックスが持つコミュニケーション技術や企業ネットワークを活用し、壱岐の未来を住民自らが描き、創造していくことを目的に連携協定を締結。

10/29 木曜日

壱岐なみらい創りプロジェクト

富士ゼロックスとの調印式

10月29日、富士ゼロックス・富士ゼロックス長崎と「壱岐なみらい創りプロジェクト」連携協定の調印式を行いました。このプロジェクトは、コミュニケーション技術について研究されている富士ゼロックスと連携して、市民皆様が中心となり壱岐の新しい未来を創造していくものです。

また、富士ゼロックスの持つ最新のICT技術や、一流企業とのネットワークの活用も期待されます。

右：富士ゼロックス　岡野常務

左：富士ゼロックス長崎　小林社長

離島の活性化モデル目指せ

「壱岐なみらい創り」へ

市と富士ゼロックスが調印

壱岐市と富士ゼロックス（東京）、富士ゼロックス長崎（長崎市）は29日、離島の活性化モデルを目指す「壱岐なみらい創りプロジェクト」を発表した。地方創生に関する同社のノウハウを活用し、市民の対話を通じた産業創出や人材育成に取り組む。

一般公募する市民が「実現したい壱岐市の未来像」「残したい姿」などのアイデアを出し、テーマごとに人脈をつくって課題解決や目標の達成を目指す。市は市民が描いた将来像などを総合戦略に反映させる。

東京の富士ゼロックス本社で連携協定の調印式があり、白川博一市長は「個性豊かで持続的成長を生み出せるコミュニティーづくりを目指したい」と語った。富士ゼロックス側は「コミュニケーション技術の開発に取り組んできたノウハウを生かし、地域の本音を引き出して、活性化につなげたい」としている。

（豊福幸子）

10/30朝刊　西日本新聞

長崎で地域創生連携

■富士ゼロックス　長崎県壱岐市と組み、地域創生対策の事業化を進める。住民の意見を募り、離島での生活に関する課題や意見を集約する。海外観光客への対応なども含めて、地域創生に必要な施策やＩＴシステムなどを開発するほか、富士ゼロックスの顧客企業や大学などとの連携も検討する。

10/30朝刊　日本経済新聞

「壱岐なみらい創りプロジェクト」全体フレーム

壱岐市のコンセプトである「実りの島、壱岐」を住民自らが創造し、それを壱岐市と富士ゼロックスが支援し、実現していく。　「三方よし」の具現化

くらしのProfessional
子ども・若者・住民
豊かなくらし

若い力を活用したまちづくり
高校・大学と連携した
まちづくりの実施

新たな産業創出
環境整備による
新産業の創出

関係人口増加
企業視察・研修による
関係人口の増加

地域ブランド活用
新たな地域ブランディン
グによる横展開の促進

地方行政のProfessional
壱岐市役所
継続した行政運営

みらい創り・イノベーションのProfessional
富士ゼロックス
共通価値（CSV)モデルの創造

壱岐なみらい創りプロジェクトとは？

対話による住民の夢の掘り起こし・磨き上げ

- みらい創り対話会による住民の夢の発掘・ブラッシュアップ
- これまで市政に反映できなかった子どもや若者などの意見も幅広く獲得

官民協働による住民の夢の実現・普及

- 壱岐市、長崎県のほか、富士ゼロックス等の企業、大学等との連携による事業化
- ビジネスモデル及び地方創生モデルとして壱岐市以外の地域への水平展開の実現

第1回「みらい創り対話会」参加者数と内訳

H27年度（シーズンⅠ）

		参加人数
1大きなテーマで人脈形成	第一回 対話会 11/28-29	90名
	第二回 対話会 1/16	130名
2テーマの発見・特定	第三回 対話会 2/13	84名
	第四回 活動報告会 3/5	80名
※壱岐商高総合学習	将考の時間 対話会 3/11	225名

H28年度（シーズンⅡ）

		参加人数
3 テーマの具体化	第一回 対話会 5/15	115名
	第二回 対話会 6/12	103名
4 テーマの普及・定着	第三回 対話会 8/21	70名
	第四回 活動報告会 11/20	92名
※壱岐高校文化祭	壱岐高校 体育館 9/10	77名

シーズンⅠ・Ⅱ合計 のべ**1,066**名 ⇒ 内訳 学生:**525**名 市民:**366**名 島外企業:**175**名

第1回「みらい創り対話会」から生まれたテーマ

	テーマ名	活動経緯	現状・結果
1	学びの島、壱岐	原の辻遺跡公園を舞台にした、リトリート×ウォーキングによる教育プログラムを開発	企業研修と教育旅行メニューの商品化
2	壱岐の巡礼	神社巡りコースの開発と案内標識の整備、神社の特徴を紹介する音声ガイドサービスを作成	神社巡り観光コースの商品化（“壱岐の神社・42社巡り”）および9神社を紹介する音声サービス導入
3	福岡にうって出るぞ	壱岐商高、壱岐高校両校生徒による「みらい創りプロジェクト ロゴマーク」を作成	高校生がデザインしたラッピングバスが走行中
4	壱岐の空き家で民泊	空き家情報の収集や活用アイデア募集のFaceBook立上げ や、遊休施設活用による交流スペースつくりを実施	遊休施設を活用したテレワーク施設を開設
5	古くて新しい島　壱岐	イベント企画と情報発信を効果的に行うためSNS分析と連動したプロモーション企画	“壱岐の神社・42社巡り”をテーマにした旅行商品のPRを実施
6	あいさつによる地域活性化	サイクルフェスタ、企業研修での来島者への応援やウルトラマラソンの手作りの手旗やメッセージフラッグを作成	イベントや来島者の送迎等において手旗やメッセージフラッグを活用
7	楽しみながら島巡り	壱岐をアーティストが集まる島にするために、古民家をリノベーションしてアーティストの滞在拠点つくりを計画中	アーティストインレジデンスの実現に向けて古民家のリノベーションを計画
8	壱岐じゅんかん島	循環型社会の重要性を広く知ってもらうため、学生の農業アルバイトや無農薬農業の勉強会を実施	“安全安心そして美味しい有機野菜を食べる勉強会”開催
9	壱岐の農業活性化	学生に壱岐の農業のすばらしさを知ってもらうためのトマト農園見学を実施	アイメック農法による高付加価値のミディトマトを生産するトマト団地を計画

市民の夢を実現する形で開設

①大陸との交流拠点「王都 原の辻」を中心とした人が集まる（交わる）街づくり
②現在、活用されていない施設を多様な人々が集まる場所にしたいとの想い

⇒ H28年度の総務省「ふるさとテレワーク推進事業」の採択を受け、原の辻遺跡内の倉庫をリノベーションして、テレワークセンターを整備
⇒ 「ふるさとテレワーク推進事業」の対象外部分（コミュニティスペース等）を、H29年度に内閣府「地方創生拠点整備交付金事業」を活用し、上乗せ整備

「壱岐テレワークセンター（フリーウィルスタジオ）」の開設

フリーウィルスタジオの位置・アクセス

「原の辻遺跡」は、今から約2000年前に栄えた「一支国」（『魏志倭人伝』にも登場）の王都の遺跡であり、史跡の国宝である国特別史跡に指定されています。
また、平成27年には「日本遺産」にも認定されています。
そして、フリーウィルスタジオは、「原の辻遺跡」内にある「原の辻ガイダンス」の横に開設されています。
（※ 壱岐市は市内全域に光ファイバ網が張り巡らされており、テレワークに最適な環境です。）

【原の辻遺跡】

【原の辻ガイダンス】

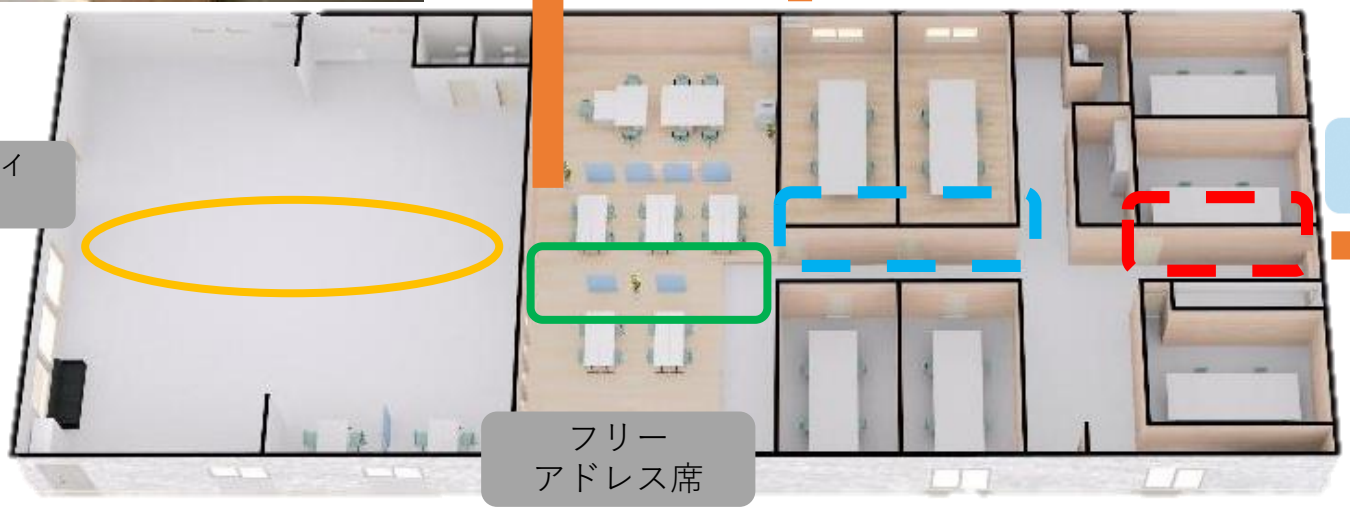
〒811－5322
長崎県壱岐市芦辺町深江鶴亀触1092-5

主要な壱岐のアクセスポイントから路線バスにて、
郷ノ浦港から25分
芦辺港から15分
印通寺港から5分

フリーウィルスタジオの平面図

● **フリーアドレス席**

20名可能



● **コミュニティスペース**

子どもの遊び場、サークル活動等に活用

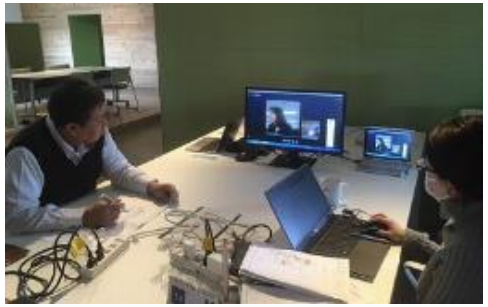
● **サテライトオフィス**

４名から６名のコンパートメント（個室）７室

フリーウィルスタジオの利用シーン

■ 島外の企業・ビジネスマン/ビジネスウーマン

- 島外企業のサテライトオフィスとしての利用
- 島外企業の壱岐拠点開設に伴うスタートアップ拠点としての利用
- リゾートテレワークのコワーキングオフィスとしての利用
- 企業研修、会議等でのテレワークセンターの利用
- 企業のオフィスワーカーと島内テレワーカーの交流



Ｗｅｂ会議の様子

■ 壱岐市内のテレワーカー

- 在宅ワーカーのクラウドソーシング等による新たな仕事を創出する拠点
- 起業者の事業拠点としてのテレワークセンターの利用
- 教育研修、会議等でのテレワークセンターの利用

Ｗｅｂライティングセミナーの様子
（子ども連れの母親も参加）

ＩＴ人材育成の取組

■ＷＥＢアプリ開発技能者の育成（アプリ塾の開催）

【Ｈ２７年度】

①HTML体験コース　10時間
②HTML手に職コース　60時間
③iOS手に職コース　90時間
④android手に職コース　90時間
⑤LAMP手に職コース　150時間
※全コースの延べ受講生は**36名**

【Ｈ２８年度】

①HTML（昼・夜）　６０時間×２
②デザイン　２１時間
③iOS　８８時間
④android　８８時間
⑤LAMP　１６４時間
※全コースの延べ受講生は**３５名**

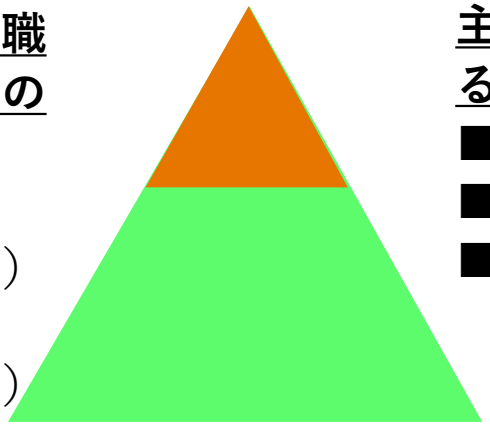
実際の仕事につながる方式に変更

副業登録は27年度13名、28年度17名の合計30名
⇒実際に仕事をしたのは7名のみ

■プログラマー養成

若い人材を対象に今後ＩＴを主な職業にできる人材を育成（若い人材の確保）

■Ｈ２９年度：３名育成
（Ｕターン２名・Ｉターン１名）
■Ｈ３０年度：３名育成
（Ｕターン１名・Ｉターン２名）



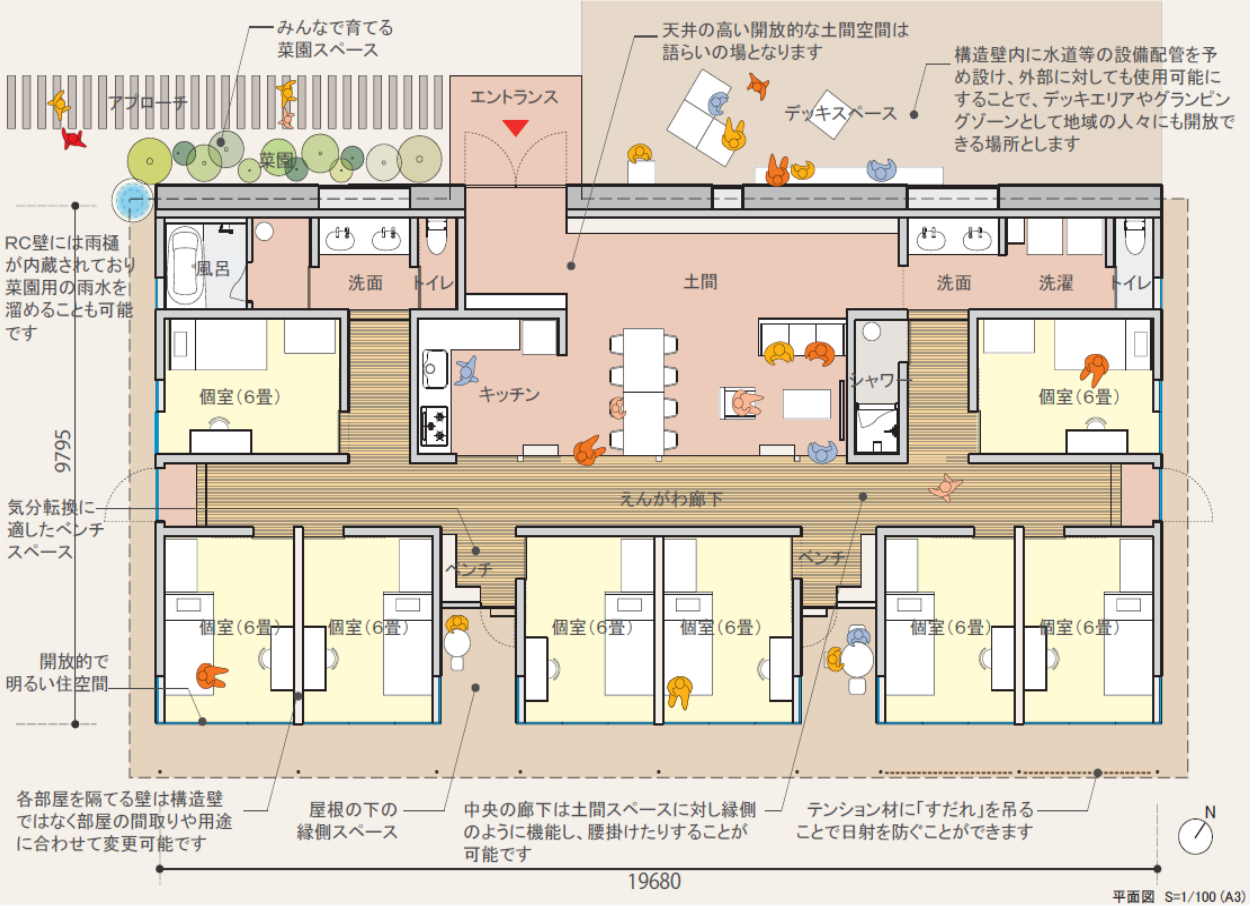
主婦層や高齢者等を対象に少し稼げる人材を育成（可処分所得の向上）

■Ｈ２８年度：１０名育成
■Ｈ２９年度：１３名育成
■Ｈ３０年度：６名育成

■WEBライター養成

シェアハウス（短期滞在型施設）の整備

●建設場所：フリーウィルスタジオ徒歩圏内の市有地
●事業費等：壱岐市が地方創生拠点整備交付金事業《内閣府》を活用して整備
（事業費：３５百万円／補助率：1/2）
●構造等　：木造平屋のシェアハウス（８戸の居室スペースと共有土間スペースにより構成居室の眺望と採光を最大限に確保、また、広くのびのびとした土間空間の両立を実現させるにあたり「竪穴式住居」の構造様式を導入。



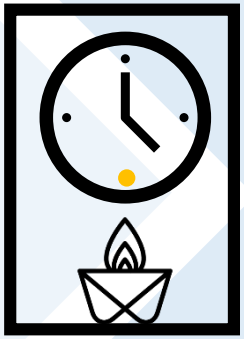
官民連携によるテレワーケーションの推進

フリーウィルスタジオから島全体まで、
段階的、そして一体的な改革推進計画

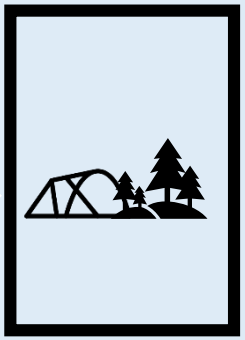
Freewill Studio IKI
IKI TELEWORK PROJECT

OSOTO

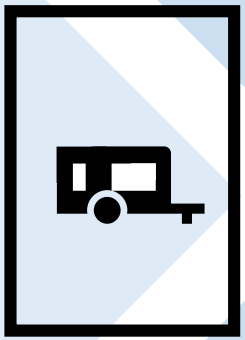
コンダクター



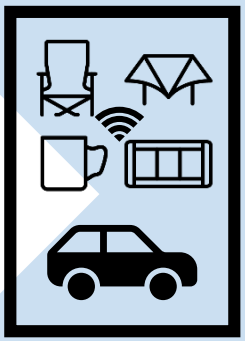
焚火時間



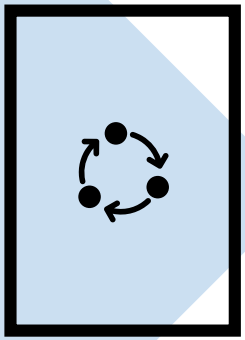
CAMP



FAMILY

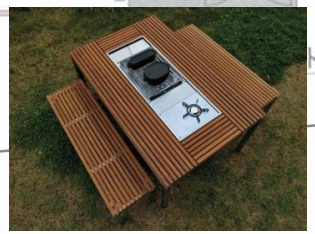


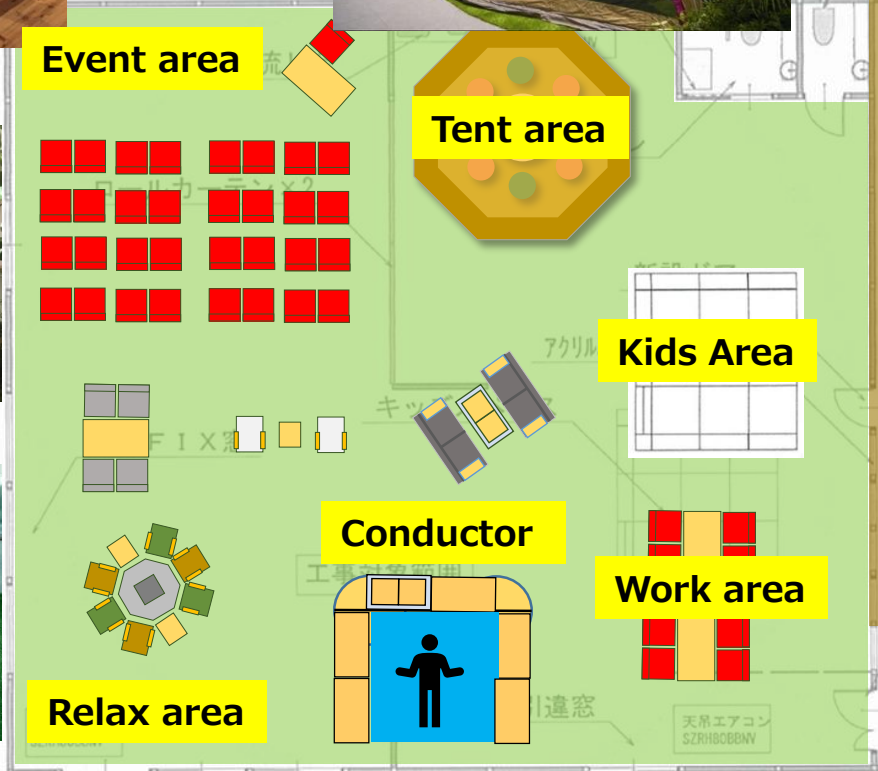
MOBILE



DISTRIBUTED

スノーピーク・キャンピングオフィスの新モデル





第1回「SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業」

×

壱岐活き対話型社会
「壱岐（粋）なSociety5.0」

2030年　壱岐市のあるべき姿（将来像）

・2000年続く交流・対話の島の歴史を未来へとつなぐとともに、先端技術を積極的に取り入れ、少子高齢化等の社会的課題の解決と基幹産業である1次産業を中心とした経済発展を両立する。
・現実・仮想ともに様々な人や情報につながることで、イノベーションが起こり続け、あらゆる課題に対応できるしなやかな社会を作るとともに、一人一人が快適で活躍できる社会を目指す。

具体的な5つのイメージ

1.1次産業スマートイノベーション
定植から収穫、出荷、販売の流れをシステム化し、IoTおよびAIを使って生産自動化。

2.ＥＶを活用した高齢者の移動サポート・大気汚染の低減
生産物の輸送技術（自動運転）を活用したEV新システムの導入。高齢者はこのEV新システムで元気に市内を移動！大気汚染をなくしクリーンな環境に貢献。

3.若年から高齢まで幅広く交流し、互助関係の確立による安心・安全なまちづくり
交通インフラを整備し、よりよい対話交流活性化。起業経験や将来を見据えた学習成果により、Uターン人材が、遠隔コミュニケーション活用によって島外と連携しながら活躍！

4.クリーンで持続可能なエネルギーづくり
風力エネルギーと蓄電化を推進。木質バイオマスや焼酎かすを使った再生可能エネルギー活用・研究。

5.外部から多様な知恵を取り込み、進化と変化を恐れない柔軟で強靭な地域づくり
積極的に外部から企業や人材を招聘し、多様な知恵を集めた対話会を起点に、柔軟な環境変化を創出。国境の島として、交流により強靭なまちづくりを進める。

壱岐なみらい研究所の開設

■ 「壱岐なみらい研究所」では、様々な立場の人が集まり、学び合うことで、多様化・複雑化する地域課題に対応できる人材を育成する。

■ 慶應義塾大学SFC研究所の高度かつ専門的な指導により、育成が難しい未来の壱岐・日本の発展に必要な人材を効果的に育成する。

■ 立ち上げ当初は壱岐市職員５名、企業人２名の７名で始め、その後、慶応義塾大学大学院生1名を加えた８名をメンバーとする。

■ 大転換期にある「高大接続改革（大学入試改革）」を見据えて、高校生が地域課題に挑戦したり、高校生自らが「なりわい」を創り、運営していくなどのアクティブラーニングを行いやすくするため、高校生研究員制度も検討する。

■ 将来的には、市民や企業だけでなく、長崎県職員や他市の職員の受入れについても検討し、「住む人・訪れる人に実りを与える島」を目指す。

Industry
Dialogue
Interactive
Society Environment Economy
Connected World
Resilience Relationship
Global SDGs IoT
Economy
AI
Industry
Mobility Support
Safety Culture Manufacturing
壱 岐 活 き
Smart Agriculture
対話型社会
IoT Clean Energy
Dialogue Environment
Resilience Relationship
SDGs Technology
AI Society Environment Economy
Interactive Communications
Infrastructure
Dialogue
Safety Culture
Industry
Global History
Society
Economy
壱岐-粋-な
Society5.0